

## 現場での“超・一流の脇役”の“土方（土木職人）”の育成を夢見て

我々の活動の拠点「佐野市」は、栃木県の南西部に位置し、東隣に栃木県栃木市、西隣には同足利市、またその隣は県境をはさみ群馬県桐生市、同みどり市、同太田市、南には同館林市など各都市が位置し、この県境をまたぐ一帯は昔から「東毛地区」と呼ばれ、そのほぼ中央には一級河川渡良瀬川が流れ、その下流には日本公害の原点（足尾鋇毒事件）として知られる渡良瀬遊水池（旧谷中村・栃木市藤岡）があり、道路網も近年の高速道路の発達とともに同市の東側には東北自動車道（佐野藤岡IC）が走り、また、市の中央部を関越道高崎JTC～茨城県ひたちなかIC間を走る北関東自動車道（佐野たぬまIC）が横断し、他一般国道50号（前橋市～水戸市）、同国道293号（日立市～足利市）も市内を走り重要な役割をはたしています。鉄道網もJR両毛線（新前橋駅・群馬県前橋市～小山駅・栃木県小山市）が市の中心部を横断し、私鉄も東武鉄道伊勢崎線（浅草駅～伊勢崎駅間）を館林市駅乗り換え、東武鉄道佐野線が館林市から佐野市の南部から北部の石灰・砕石の産地として全国的に名高い同市葛生まで縦断しています。

また、NHK2016年・大河ドラマ“真田丸”の画面に出てくると思われる戦国時代の天下分け目の関ヶ原の合戦にその東・西両軍のどちらに付くかを真田家の存亡をかけ親子会議通称“犬伏評定”？が行われたと言われているところでもあり、まー、TVの画面で放映でもされれば良いんですが・・・。

また佐野市は、古くは万葉の東歌に詠まれた、“下毛野（しもつけの）安蘇（あそ）の河原よ石踏まず空ゆと来ぬよ汝（な）が心告（の）れ”：作者未詳歌、その内容は“安蘇の河原を、石を踏まず空を飛ぶようにしてやってきたんだ、さあ、お前の本心を聞かせてくれ”、と哀愁を帯びた歌が詠まれている。その万葉に出てくる「安蘇（あそ）」の地名が、国が進めた地方分権の推進事業により当地で以前から言われていた“安佐は一つ”の名の元に佐野市の北側に位置する安蘇（あそ）郡の2町の田沼町・葛生町とが合併し、平成17年2月28日に新佐野市（人口約12万8千人）としてスタートしたところですが、その万葉の東歌でも歌われ消え行く「安蘇（あそ）」の地名を惜しみ、その「あそ」の名を当（特非）法人の名前の頭に付けた次第です。

そして次の“地下（直）足袋”のところは、当初“青空大学土方塾”として申請書を作成し不備無いもと意気揚々と担当機関に提出にいったところ、担当者が見るなり間をおかずチョット待って下さい・・・、実は・・・この“土方”という二文字は職業（放送禁止）差別用語なので・・・、要は“土方”の部分の名称を変更してほしいとうことで、始めは絶対に“土方”は直さないなど、すったもんだの挙句、数日後、今では、安全靴が現場での作業員等の足元を守るものでありますが、小生らがこの世界に入り駆け出しの若い衆のころ、当地方では我々土方屋の大先輩諸兄等は必ず、“底にゴムが付いた足袋”を甲馳即ち足袋の止め金で止めた“地下（直）足袋”を履き現場で仕事をしていたことが印象に残っており、また、それに替る代替案も思い浮かばずに“青空大学土方塾”を後ろ髪を引かれる思いで達引きせずあっさり“地下（直）足袋”にした次第です。なんでそんなに名称にこだわるのかというと、それはこの法人の目的である、半世紀前より分かっていた少子化で減少の一途をたどる人口問題、また、おまけに3K・5K等といわれる作業環境で仕事をせざるを得なく、少なくなる一方の“土方（土木職人）”を工事現場での“超・一流の脇役”として育て、また、この道の大先輩諸兄から継承されてきている“新・旧の土工法（仕事）”や“現場用語”等、耳目を広めて大切に継承して“土方（土木職人）”の育成を目的にしているからです。

また、前出の“土方”の話しになりますが、2012年・年末恒例の“第63NHK紅白歌合戦”のステージで麗人美輪（丸山）明宏さんが、“土方”の歌“ヨイトマケの唄”を歌ってくれました。それは“土方”という小生の大好きな言葉を天下のNHKを始め世の中の皆さんが職業（放送禁止）差別用語ではないと認めた？んかな・・・、確認はしていないので分かりませんが・・・？。

ところで当法人の活動内容は、現場での“失敗から学ぶ技術研修会”を、この地域の建設業の現場で働く諸弟等に対し、年5回開催し、年齢差もありバイアスも結構違うので、最終的には身の丈に合った話をするように心がけています。他に毎月1回の割合で佐野地域やその近辺で施工中の“現場の安全管理状況”を見て指導したり、大雨などの災害時には河川・道路の現場のパトロールを、311以後多発する地震などの災害時には素早く路面・橋梁・トンネル・堤防天端の亀裂等の調査をして不都合な処があれば関係機関への連絡をします。

また1年に1回、この道の大先輩諸兄等が額に汗して施工（工事）した土木遺産の見学会を全員で実施しています。最近行ったところは長野県松本市郊外にある“牛伏川の仏式階段流路工&国宝松本城”や元国鉄信越線の横川～軽井沢間の“通称めがね橋&現国宝になった富岡製糸場”、また去年は以前土木遺産（重文）になり隅田川に架橋されている“清洲橋・永代橋・勝鬨橋&江戸東京の水路巡り（日本橋～隅田川～小名木川（扇橋閘門）～横十間川（東京スカイツリー）”等、またこれらの土木遺産などの見学会には、健康で元気一杯の「年金組の女性」も多く参加し、帰りには“来年は何処に行くの・・・”等の話しも出て、返答に困ることもあります。

最後になりましたが、“実習活動事業”は昨年雨で開催できなかった縦1m×横1m×深1mの1立米の土を人力で掘削する行事を会員全員で実施する予定です。以前は地元の氏神様の存在の唐沢山神社山頂にある測量標（高さ約240m）まで水準測量をして測量の正確さを競ったりし、民間のブロック塀（2.2m）の基礎の工事を全部人力で掘削から栗石基礎・型枠組立て・最後に鉄板の上でコンクリートを練り、打設等も行いました。

また、土木という仕事に将来興味を持って1人でも2人でもこの道を志す子どもの人財育成？のために、地元の小中学校に行って土木に関する話即ち“出前講座”などもしています。子ども（女子も）達は建設機械や測量機器に非常に興味をもってくれますが、そこに立会いに来ている“教育ママ”等はどう見ても、うち子は絶対“けんせつ小町（女子）”等にはしない・・・、コンピューターやアパレル関係の仕事につかせたいような面（つら）をしています・・・。困ったもんですね。

社会貢献活動としては栃木県が主催する“愛リバーとちぎ”に登録し、たった年5回ですが河川の除草や河川敷内に投物されているゴミを拾得する作業もしています。なにか河川をゴミ捨て場と勘違いしている人が多くこれまた困ったものです。

最後に地方の建設業の社長と言われている夜郎自大の諸兄等に一言、今までに“人材”を“人財”に育てず、色々ある仕事を作業程度に甘くみて、明確に戦略も立てず、組織づくり、また一番大切な決断をおろそかにし、行きあたりばったりで一顧もせず、何かあると、それ政治が、それ行政が悪いんだと言わんばかりで、今の人手不足をいいことに金の宝を採用する時だけ巧言令色な事を口先で並べ諂うことばかりで、たまには俺の処（会社）に來い“一生面倒見るから、心配するな・・・”くらいの意気地で“土方（土木職人）”を採用して使い、そしてもっと彼等に勉強をする機会を与えろ、全く勉強をする機会を与えてないではないか、今、刻苦勉強させないとこれから続く二世帯、三世帯後を考えろ、なに一、今も考えられないのに・・・云々だ・・・と言うなら直ぐに会社を廃業しろ、そこで働く若い“土木職人等”が可哀そうだ。実に片腹痛く今の地方の建設業の体たらくは諸兄等が招いたと言っても過言ではないんだぜ。之はあまり（特非）に関係ありませんが。

何と言っても、“土木”という名の付く仕事にセクショナリズムがでたり、おまけに長年飯を食わせてもらったりしているのと少し、インポスター感情や自惚史観があるかもしれません・・・。こんな活動を会員数35人で結束10年目の（特非）です。

#### 特定非営利活動法人 あそ地下足袋倶楽部

〒327-0843 栃木県佐野市堀米町227番地14

<http://deresukesena.blog87.fc2.com/>